

# 第15回教育研究審議会

## 議事概要

日 時 令和2年11月25日(水) 午後4時00分～午後6時45分

場 所 本部棟3階 大会議室

出席者 藤田英典学長、杉本光司副学長、田中昌弥副学長、深澤祥邦事務局長、小林重雄理事、佐藤明浩学長補佐、加藤めぐみ学長補佐、新井仁入学センター長、廣田健教職支援センター長、北垣憲仁地域交流研究センター長、茂木秀昭国際交流センター長、竹島達也研究科委員長、野中潤国文学科長、ハウエル・エヴァンス英文学科長、山本芳美比較文化学科長、原和久国際教育学科長、鳥原正敏学校教育学科長、春日尚雄地域社会学科長、矢嶋亘総務課長、石川和広経営企画課長、中村さき子学生課長

藤田学長より挨拶

---

## 2 議 事

### (1) 専任教員の採用について(国文学科)(投票)

◇採用予定候補者 新規採用者

○投票の結果、信任多数により承認

(投票結果) ○20 ×0 白0 計 20名

### (2) 所属部署以外の専任教員による科目担当コマの発議・提案について(比較文化学科)

○担当者から資料2に基づき「所属部署以外の専任教員による科目担当コマの発議・提案」について説明。→提案通り承認。

◇日本文化・社会論

◆現担当者(非常勤講師)の退職による

○担当者から資料2に基づき「所属部署以外の専任教員に関する意見書」について説明。→提案通り承認。

### (3) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案について(国際教育学科)2件

○担当者から資料3-1に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。→提案通り承認。

◇Inquiry Seminar I・Inquiry Seminar II・Inquiry Seminar III・Inquiry Seminar IV・フアシリテーションスキル・教育における調査入門

◆専任教員の産休・育休による代替(前回提案の修正による再提案)

◇Global English IIIA・ディベートIA・PYPカリキュラム編成法・English Presentation A・English Presentation B・ディベートII

◆次年度開講科目のため。及び専任教員の減コマ調整のため。

○担当者から資料3-2に基づき「非常勤講師採用候補者に係る資料等」について説明。→提案通り承認(予定1年間)。

- ◇日本心理学・日本教育心理学・日本発達心理学・日本パーソナリティ心理学ほか  
新規採用者 ランク A  
→履歴書を拝見すると現住所がドバイとなっているが通勤はどこからする予定でしょうか。
- 3月中に帰国予定であり関東在住となるため通勤も問題ない。
- ◇大学英語教育学・日本児童英語教育学・日本語教育学・日本ディベート協会ほか  
新規採用者 ランク A

(4) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案について (学校教育学科) 1 件

- 担当者から資料 4-1 に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。
- 提案通り承認。

◇専門演習 I (教育方法論)・専門演習 II (教育方法論)・教授学演習 I

- ◆現担当教員の退職に伴う措置

◇教授学特別演習 (専攻科)

- ◆今年度未開講科目となっている科目の補充

- 担当者から資料 4-2 に基づき「非常勤講師採用候補者に係る資料等」について説明。
- 提案通り承認 (予定 1 年間)。

- ◇日本読書学・日本教育心理学・日本図書館情報学・日本学校図書館学・日本教育方法学  
新規採用者 ランク A

(5) 令和 3 年度 開講科目について (教養)

- 担当者から資料 5 に基づき説明。→提案通り承認。

(6) 令和 3 年度 非常勤講師の授業担当科目について (第 4・5 回)

- 担当者から資料 6-1 及び資料 6-2 に基づき説明。→提案通り承認。

(7) 2021 年度 TISP 履修モデルについて (国際交流センター)

- 担当者から資料 7 に基づき説明。→提案通り審議。

→日本人学生が受講することが可能であるか。

→ほとんどが自由科目であるため受講可能である。

→文学部三学科改革室において作成した三学科横断プログラムについてホ

ームページ上に掲載があるため、本履修モデルとあわせてバージョンアップをしていただきたい。

→広報上の戦略として必要であると考えためバージョンアップについても検討していただく。

(8) 上海外国語大学オンライン授業単位認定について (国際交流センター)

- 担当者から資料 8 に基づき説明。→継続審議。

→仮に 20 単位認めるとなると履修制限と関連するが確認済みであるか。また単位互換する科目は決定しているか。

→現状、単位互換する科目及び履修制限の確認が出来ていない。

→該当学生が私のゼミ生であり昨日のメールでは本人は渡航できるようになった場合には 1 年間の留学を希望しており実際に留学できた場合の単位互換にも問題が生じる。また、他の留学予定であった学生への周知がなされているのか。

→再確認をする。

→現状では本学にオンライン留学の規定がないため新たにルールを作成する必要がある。なお、他学科でハワイ大学とのオンライン授業を既に実施しているがどのようなようになって

いるか。

→ハワイ大学のオンライン授業については、海外事情研修として2単位となっている。

→国際交流センターとしてルールを作成し提案してもらう必要があると考える。

→オンライン授業が1月までであるため継続審議とし次回以降スキームなど作成のうえ提案していただくものとする。

(9) 公立大学法人都留文科大学教員昇任選考内規の一部改正(案)について

○担当者1及び担当者2から資料9に基づき説明。→継続審議。

→教員選考委員会において提出される申告書に基づき昇任選考を実施するものであるか。

→本人の申告書について内容の正当性の判断はどのように扱うのか。

→基本的に申告内容の確認もできる範囲で行うものである。

→改正の趣旨は理解でき賛同できるが、学科会議での審議については前置きをせず学科長提案とするのは問題があると考え。また、項目の内容についても疑義が生じるものもあると考える。

→今回の提案として項目が多くなっている部分について、選考時に何らかの項目により該当し点数を増やすための措置的部分も含んでいる。

→学科長から学科教員へ説明するのではなく、執行部から説明を付して提案していただきたい。なお、個人的に提案については努力する部分が明確になるため賛成である。

→数字に対して抵抗感を持つ教員が多く存在するため、該当・非該当のチェックだけにする 것도検討して良いと考える。

→評価項目の提示はあった方が良くと考えるが点数制については検討の余地がある。なお、点数については上限があることについても言及していただき、学内外の様々な分野での活躍が必要であることも提示する必要があると考える。

→FD委員会での自己点検票とリンクするものとしていただきたい。

→提案方法などについて検討する必要があるため継続審議とする。

(10) 学部の教育目的(案)について

○担当者から資料10に基づき説明。→一部修正の必要があり継続審議。

→意見として後に改正等を考えるのであれ可能なかぎり文字数を減らし言質を取られないようにしておいた方が良い。

→すべて理念的なものであり言質を取られることはないと考え。

→一行目の「語学・言語文化」は「文学・言語文化」の方が良くと考える。また、文学部でも教員養成要素が大きいため入れておいた方が良くと考える。

→国文学科でも教育という要素を売りにしたい。「人材」については「人財」や「人間の育成」でも良いのではないかと意見があった。

→「学習」について「学修」でも良いのではないか。

→英語表記について大文字を一部のみ使用しているが統一した方が良く。

→「人材」については本学が他で使用しているのと同様にしている。なお、いただいた意見を集約し一部修正するものとする

(11) 国際交流プログラムの拡充について(国際交流センター)

○担当者から資料11に基づき説明。→提案通り承認。(第14回継続審議案件)

→学長が積極的に国際交流プログラムについて検討していただいていることに感謝するが、前執行部体制時に国際交流センターが一部機能していない時期があり、英文学科・比較文化学科・国文学科による改革室内に交換留学専門部会が設置され、6・7校と協議を進め語学留学協定を締結した経過がある。しかし、前執行部は語学留学に対して消極的で

あったため実際の派遣に至らなかったもので、今後は語学留学も拡充する考えとのことであるので情報提供させていただく。

→比較文化学科でも以前、台湾の大学と協定を締結しようとして企画などしたことがあるが前執行部や前の国際交流センター体制に合致せず立ち消えた経過がある。

→コロナ禍における留学について様々な判断があると考えているが、

→コロナ禍の影響について判断が必要となるが、いつでも留学が再開できるよう準備しておく必要があり、国や地域なども拡充していく必要がある。そのためにセンター拡充の必要性がある。

→国際教育学科設置に伴った北欧留学の充実とは反対に、本学の学生募集のストロングポイントでもあったカリフォルニア州立大学との協定が終了になってしまった。本学の国際化のためにスピード感をもって特に英語圏を復活させることも必要であると考えている。また、ランキングの表にある上位他大学のノウハウも調査する必要があると考えている。

→カリフォルニア州立大学については ICU などに直接行き再開に向けた検討も行いたいと考えている。

→慢性的なマンパワー不足となっており新規事業が実施できない状況にあり、運営委員会からも専任教員やインターナショナルコーディネーターの補充について意見が前々から出ている。

(12) その他 ○なし

### 3 報 告

(1) 新型コロナウイルス感染症等対策本部会議報告について

○担当者1・2・3から対策本部各部門からの状況報告。

(2) その他

○担当者から、GIGA スクールの前倒しが行なわれているが「ipad」「chromebook」が多数のシェアを占めていること、また、それぞれ使用方法が相違しているため本学学生が各々の操作に触れることが出来るよう担当部署で整備することを本学でも検討した方が良く考える旨の情報共有。

○担当者から昇任人事・採用人事などについての連絡。

### 4 閉 会

以 上